

健

康



徳大病院

元気を支える医療

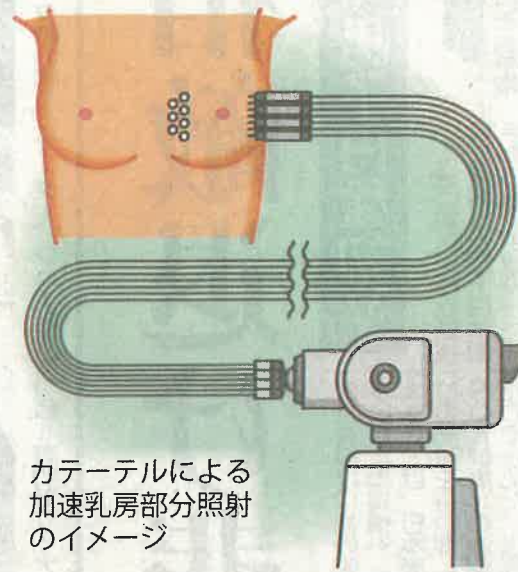


川中 崇

放射線科准教授

乳がんは女性にとって大きな脅威となる疾患の一つです。しかし、定期的な検診が普及して早期に発見されるケースが増え、治療の成功率、生存率ともに高まっています。

かつては、早期でも乳房を全摘出する手術が一般的でした。乳房を失うことは大きな心理的負担が生じ、幸福感にも影響を及ぼすことがありました。そのため近年は早期の場合、乳房を残して治療を行う「乳房温存療法」が主流となっています。腫瘍のある部分だけを取り除く手術（乳房部分切除術）をした後、乳房全体の放射線治療（全乳房照射）を施し、全摘手術と同等の効果が得られるようになりました。



カテーテルによる加速乳房部分照射のイメージ

乳房保つ早期乳がん治療

短期入院 腫瘍に放射線部分照射

乳房部分切除術は技術が進歩し、再建手術も同時に行うことで、より自然な形を維持できるようになっています。一方で部分切除術後の放射線治療は、長らく全乳房照射しかありませんでした。放射線の影響で皮膚の硬化や乾燥、変形などが起きやすくなりました。

近年の研究で、腫瘍の範囲が狭い場合、腫瘍を切除した部分だけに放射線を照射する方法が有効であると分かりました。体への負担が減るため、一度に照射する放射線量も増やすことができ、結果的に治療回数も減らせます。これを加速乳房部分照射（APBI）と呼びます。

APBIは部分的に照射するため、放射線の影響を最小限に抑え、乳房を残しながら治療効果も得られます。当院で行うAPBIは乳房にカテーテルを挿入し、カテーテル内から放射線を当てます。腫瘍があった部分にしっかりと照射できる上、副作用も減らせます。全乳房照射は通常、6週間の外来通院が必要で

ですが、APBIでは4日間入院して3回照射するだけです。7年前にAPBIを始めた当初は10日間入院し、10回照射する必要がありました。しかし、高度な技術が要求される最新のマルチカテーテル法を採用してから照射回数が減り、治療の精度が高まっただけでなく、より負担が少なく傷痕も残りにくくなりました。世界的にも先進的な方法で、当院は全国でトップクラスの実績を誇っています。

APBIは地域医療においても重要な役割を果たしています。徳島県内は放射線治療の装置がある病院が徳島市とその周辺に偏っているため、距離的に通院が難しく、乳房温存療法が選択できるのに全摘手術を選ぶ患者さんもいました。APBIならば短期の入院で治療できる上、退院後すぐに職場復帰が可能です。

乳がんの治療は、一人一人の病状に合わせて最適な方法を選択することが重要です。APBIは新しい選択肢の一つとして、多くの患者さんに希望をもたらしています。